

**2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 映像学部**  
**「プレゼンテーション方式（映像撮影型、絵コンテ作画型）」**

---

**【選考講評】**

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数

| 入試方式・試験型            | 志願者数 | 第 1 次合格者数 | 最終合格者数 |
|---------------------|------|-----------|--------|
| プレゼンテーション方式／映像撮影型   | 79   | 14        | 10     |
| プレゼンテーション方式／絵コンテ作画型 | 28   | 10        | 7      |
| 学部計                 | 107  | 24        | 17     |

(2) 入試目的

映像を多面的に評価または表現できる能力に優れ、映像関連分野で活躍することに強い意欲を持つ学生を受け入れることを目的として、出願書類の審査による第 1 次選考と、映像撮影型および絵コンテ作画型という 2 種類の型を採用した第 2 次選考により、評価をおこないました。

2. 試験内容

(1) 第一次選考

第一次選考は 2 種類の出願書類によって構成されています。1 点目は自らの成長につながったと思われるこれまでの映像に関わる経験について具体的に記入する欄、今後どのように成長したいかを記入する欄、映像学部でどのように成長したいかを記入する欄の 3 項目からなるエントリーシートです。2 点目は、指示された設定をもとに、指定の文字数以内で物語を創作する課題文章です。

(2) 第二次選考

映像撮影型では、与えられたテーマを表現する写真を撮影し、それらを順番に並べて（枚数指定）作品を制作し、その解説文章を作成しました。

絵コンテ作画型では、与えられた課題に対して、絵コンテ（絵および説明文）を作成しました。

映像撮影型、絵コンテ作画型とも上記の作成物についてのプレゼンテーションおよび出願書類の内容も含めた個人面接を行いました。

3. 出題意図

(1) 第一次選考

エントリーシートでは、映像に関わる過去の経験の多様性とこれまでの成長に対する自己評価、将来像の明確性、そこへ繋がる映像学部での学びへの意欲等を評価することを意図しました。

課題文章では、指示された設定をもとに、映像作品化を前提とした物語を自分の考えで創作できているかどうかを評価することを意図しました。

## (2) 第二次選考

映像撮影型では、個々の写真の撮影技術だけではなく、複数の写真で作品を構成することにより「映像で表現する力」がいかにか発揮されているかを評価することを意図しました。

絵コンテ作画型では、作成した絵コンテ（絵および説明文）によって、映像をイメージさせる表現力がいかにか発揮されているかを評価することを意図しました。

## 4. 評価のポイント

### (1) 第一次選考

エントリーシートでは、これまでの映像制作や映像鑑賞など、自らの成長につながったと思われる映像に関わる経験と将来像との結びつきや、将来像に近づくための科目名等をもとにした具体的な学習計画、ならびにそれらを実現することへの意欲などを評価しました。

課題文章では、指示された設定に対する理解力、映像作品化を前提とした物語の構成力、物語創作の視点やアイデア等の構想力、ならびに文章表現力があるかを評価しました。

### (2) 第二次選考

映像撮影型では、作品がテーマを表現する構成になっているか、独自の視点を持っているか、与えられた条件のもとで効果的な撮影がなされているかなどを評価しました。また解説文章については、課題の内容把握と理解、言語表現力などを評価しました。

絵コンテ作画型では、絵コンテ（絵および説明文）について、課題の内容が正確に把握されているか、絵コンテの絵において構図が効果的に作画されているか、絵の組み合わせが適切であるか、絵コンテにおける説明文が適切に記述されているかなどを評価しました。

ふたつの試験型とも、プレゼンテーションおよび面接においては、自分の言葉で考えを表明できているか、時間内に意見がまとめられているか、質疑に対する的確に応答できているか、映像学部で学ぶ意欲について筋立てて説明できているかを評価しました。

## 5. 解答状況

### (1) 第一次選考

エントリーシートでは、映像に関わる過去の経験とそこから得た成長が具体的に記述され、それを踏まえて将来像が明確になっており、映像学部での学びの計画との一貫性が感じられる解答が多く見られました。志願者の多くは、部活等での映像制作や独学による映像制作をはじめ、学祭や舞台での映像上映ならびにウェブ配信などの経験を示していました。そのうえで、映像学部での学びを通して多様な映像経験を蓄積し、卒業後に多くの人に自身の考えや思いを映像によって伝えていきたいといったビジョンを示していました。

一方で、映像に関わる経験や映像学部での科目を具体的に記述していないものや、学びの計画が漠然としたもの、過去の経験と将来像、映像学部での学びに一貫性を読み取ることができないものもありました。

課題文章では、独自の発想による構想力をもとに、直線的な起承転結にとらわれない構成、コマ割りを念頭においた構成など、映像作品としていかにか見せるのかを意識したと考えられる創作物が見られました。一方で、原案である物語の構成とほぼ変わらないものや、登場する人や物を単に変更しているだけのものなど、独自の工夫がなされていない創作物が見られました。また、複雑な構成になりすぎて、話の筋が分かりにくいものや、設問が理解できていないと思われるものもありました。

## (2) 第二次選考

映像撮影型では、受験生全員が試験の内容を理解し、時間内に作品を完成することができていました。実技試験では、受験生各々がテーマについて考え、限られた時間内で撮影に工夫をする姿が見られました。撮影の際には、構図、カメラポジション、照明などを工夫したり、撮影可能領域内にある物を取り込んだりするなど、構成上において効果的な写真を撮影しようとする姿勢が見られました。1枚の写真で明確にテーマを表そうとする作品や、複数の写真構成によってはじめてテーマが感じ取られる作品、テーマに対する自身の考えを強く押し出した作品など、多様な解答がありましたが、小道具を大胆に使った作品や画面のコントラストを強調する斬新な作品もあり、これらの作品には独創性が感じられました。一方で、作品からテーマを感じることができず、解説文章で補足しても意図が明確でないものや、タイトルが表層的で独創性が弱かったものも見られました。

絵コンテ作画型では、受験生全員が時間内に絵コンテ（絵および説明文）を描き上げることができていました。題材から着想されたイメージを効果的な構図や適切な絵の構成で表現した解答が見られました。その一方で、課題として与えられた題材について十分に考慮しきれていなかった解答、構図や絵の構成が創作意図を明確に伝えきれていなかった解答も見られました。

ふたつの試験型とも、プレゼンテーションおよび面接においては、自らの創作物について、限られた時間内において自らの言葉で説明できていたケースが多く見られました。一方で、どのような意図や表現手法を用いたのかを明確に説得力を持って説明することができない、自分の将来に対するビジョンをはっきりと示せない、あるいは、単にあらかじめ暗記してきた内容をそのまま発表していたように見受けられた受験生もいました。この他に、面接官の質問に対する応答に的確性を欠く、または積極性・主体性を感じることができない受験生もいました。

## 6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

### (1) 第一次選考

エントリーシートでは、まず映像に関わる過去の経験を振り返り、どのような成長があったのか見つけ出してください。そのうえで、その成長の先にある将来像を具体的に検討し、そこに向かうために映像学部で何を学びたいのかを考え、科目名を複数あげるなど、具体的な学習計画を立ててみてください。そのためには、映像学部のカリキュラムについて事前によく調べておく必要があります。公式ホームページ、学部パンフレットやオープンキャンパスなど、様々な方法を積極的に活用しましょう。

課題文章では、起承転結など、基本的な物語の構成や構造についてよく考えてください。そして、どのような登場人物が、どのような行動をとり、その結果として、その物語が何を伝えているのかを意識しながら、映像作品などを鑑賞してみてください。また映像制作や鑑賞などの実践を通して、コマ割りや構図などの映像的表現について理解を深めるよう努力してください。

### (2) 第二次選考

映像撮影型では、常日頃から、多様なジャンルの映像作品を、そこで活用される映像技法に注目しながら鑑賞してください。身近な撮影機器で撮影をおこなう際に、どのように撮影すればどのような効果が得られるのか、また複数の写真で作品を構成することで何が伝えられるのかを考察してください。物事を色々な角度から観察する力や視覚的な工夫を行お

うとする力も重要でしょう。また映像だけではなく広い芸術作品に触れて創造性を養ってください。

絵コンテ作画型では、多様なジャンルの映像作品を鑑賞し、身の回りのものをはじめとした様々な題材に対してその特徴を捉え、簡潔にその内容を他人へ伝達することのできる作画力などを育む必要があります。人や物を多面的に観察する力はもちろんのこと、アクションを時間軸に添って分解して表現したり、複数の人や物を効果的に配置して表現したりするなど、視覚的な工夫を行おうとすることも重要です。そのために、広く芸術作品に出会い、創造性の幅を広げながら、模写をするなど、日常的に絵を描く習慣を身につけてください。

ふたつの試験型ともプレゼンテーションおよび面接においては、自身の考えを、自分の言葉で分かりやすく伝えることができるようにしてください。

以上